文教大学の授業
2010. 1 .13 No. 30
文教大学教育研究所
埼玉県越谷市南荻島3337
TEL 048-974-8811 〒343-8511

子どものための授業を学生とともにつくる

教育学部　栗 加　均

2008 年に文教大学教育学部に千葉県の公立中学校より赴任。専門分野は、道徳教育・生徒指導・教師論であり、1　どうしたら子どもも教師も楽しい道徳の授業ができるか、2　どうしたら子どもも教師も楽しい授業・学級・学校ができるか、3　どうしたら子どもから信頼され、子どもを信頼できる教師になれるか、を研究のテーマとしている。また、教育行政の経験から論作文ゼミや教採対策も担当している。　（くりが　ひとし）

ここで紹介する教育実地研究の授業は、教育実習に向け、学生たちの大学での学びと教育現場を有機的に結びつけ、一人一人が確実に理解し、身に付けなければならない実践的指導力を主体的かつ積極的な取り組みと議論によって習得するところにある。一方、この授業では、巷で喧伝されている「協同的な学び」に実証的に取り組みながら進めている。

1　子どものためって？

6 年の千葉県教育委員会、3 年の流山市教育委員会の行政経験を含む 26 年間の千葉県の公立中学校の教員としての経験から得たことは、「子どものための教育」の大切さであり、様々なこれまでのキャリアを支えていたものもやはり、「子どものための教育」をいかに実践するかという課題と日々向き合いながら邁進してきたからのように思える。

「子どものための教育」というのは簡単であるが、あらためて考えてみると、目の前にいる子ども一人ひとりを自分と同じひとりの人間としてとらえ、その子どもとしっかりと向き合い、自分のできる限りの力を出して関わり合い、お互いの厳しいやりとりのなかから学んだり力をつけ合うこと。そうした子どもたちと信頼し合い、助け合いながら切磋琢磨し合いながら、あるべき社会のなかでのあるべき自分に向かって、今日よりも明日、明日よりも明後日と、ともに成長し合いながらよりよい人生を切り拓いていくこと、にでもなるのだろうか。もちろんこれが、不十分であることは、百も承知である。しかし、幸いなことに、教育実地研究の授業で、学生のみなさんと「子どものための教育」について一緒に考え合い、話し合いながら、自分なりに広げたり深めたりしているところである。

2　だれのための授業？

さて、教育実地研究の授業で目指していることは、東京大学の佐藤学氏が提唱している〈出会いと対話〉による「世界づくり」と「仲間づくり」と「自分づくり」による「学び」の実践である。つまり、「協同的な学び」という理論を大学の授業のなかで実践的に学ぶということである。また、同時に学びながら、

実際に指導者として「子どものための授業」をつくるために「協同的な学び」をいかに組織すべきかを考え、身につけることである。

(1) 協同的な学びとは

協同的な学びについて佐藤学氏は、「学びとは対象(教材)との出会いと対話であり、他者(仲間や教師)との出会いと対話であり、自己との出会いと対話である。」と唱え、実践の指導にあたられ、全国の多くの小・中学校で着実にその成果をあげており、学生たちにとって学ぶべきことが数多くあると得心し、授業に取り入れている。

(2) 協同的な学びをつくりあげるために

協同的な学びを取り入れるために教室では、実際に学生たちの活動的に小グループによる協同的で反省的な学びを組織し、課題を設定し共同して解決するようにしている。

①男女混合４人グループによる協同的な学びを組織すること、②教え合う関係ではなく学び合う関係を築くこと、③ジャンプのある学びを組織すること、

つまり、この授業では、学生たちが「協同」で学び合い、具体的には、作業や活動を通して、４人の学びのグループによるイメージや意見のすりあわせを行い、多様な思考を表現し交流して各自の思考を吟味するコミュニケーションを組織することを求めている。

(3) 協同的な学びの実際

ある日の授業では、「子どものための教師になる」ということを考えるために、教師としての備えるべき資質と能力についてグループで話し合ってまとめる課題を出した。

まず、個人で、「①子どもが求める教師　②保護者が求める望ましい教師　③同僚が求める望ましい教師の姿　④教育行政機関が求める望ましい教師像　⑤望ましい教師になるための大切な資質と能力」を考えまとめ、４人グループでそれぞれの考えを練り上げ、グループとしての「理想の教師像」をつくりあげることである。（図１参照）

その結果、このグループが纏めあげた理想の教師像は、図２の通りである。

教育実地研究の授業の記録　8　　2009.11.26

[A]グループ　参加者氏名

[ ] と [阿部 江里] [ ] と [宮澤 信里]

[ ] と [向元 裕太] [ ] と [平間 みなみ]

[ ] と [ ]

教師としての資質と能力についてグループで話し合ってまとめください。

(1) 子どもが求める教師

子どもを理解し、子どもの言葉に傾けてくれる教師。また誠実で嘘しくない人物であり、明るくにこやかな教師のこと。

(2) 保護者が求める望ましい教師

子どもを第一に考え、どの子どもに対しても平等に接する。さらに自分の子どもが何か小さなことでも成長できるような支援ができる人物。

(3) 同僚が求める望ましい教師の姿

学校の教育方針、運営、年間を通した学校行事や日課について？

（図１）４人グループでの話し合いのプリント

理想の教師像

《キャッチフレーズ》　Passion!!

《その姿》　教師とは、何ごとにも情熱をもって取り組むべきである。１つ目として、子どもに豊かな人間性や社会性を身につけてさせるためには、子どもの目線に立ち、愛情を注ぎ、子どもを第一に考えられる教師でありたい。２つ目に、教師自身の専門性を高め、子どもに学ぶことの楽しさを教えることができる教師である。最後に、子どもと共に学び続け成長することができる教師を目指していきたい。

（図２）グループが纏めた「理想の教師像」

そこでは、学生たちは、自らの学びの実現を中心に同僚性を築くことの重要性を認識し、教室における言葉もモノローグから、対話的なコミュニケーションへと変化してきている。

３　子ども・学生・自分のために！

「子どもを大切にし、子どもとの信頼関係を築く」なかにこそ教育の理想の実現があると確信している。また、子どもたち(学生)の未来のよりよい生き方を願い、未来を生きる子ども(学生)からしか、理想の教育は見えてこないと訴えている。今後も学生たちと共に子どもを一人の人間として全体的に捉え、発達的視点から「子どものための教育」を授業を通して極め、洗練させ、実践に繋がる構えや方略を共に求め続けていきたい。